

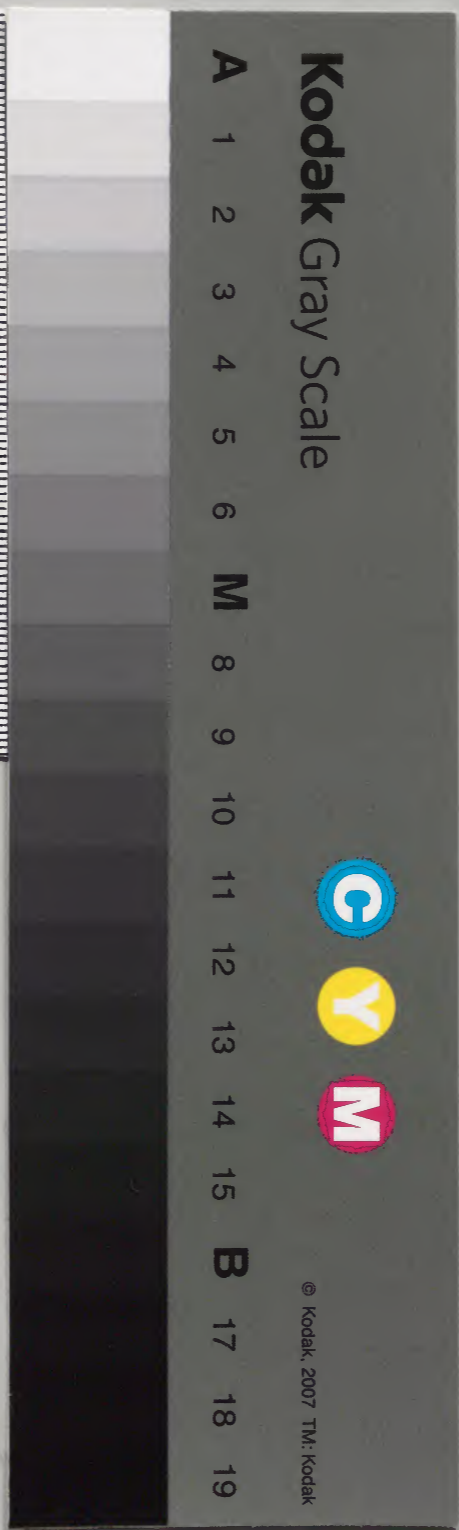
豊山玉石集

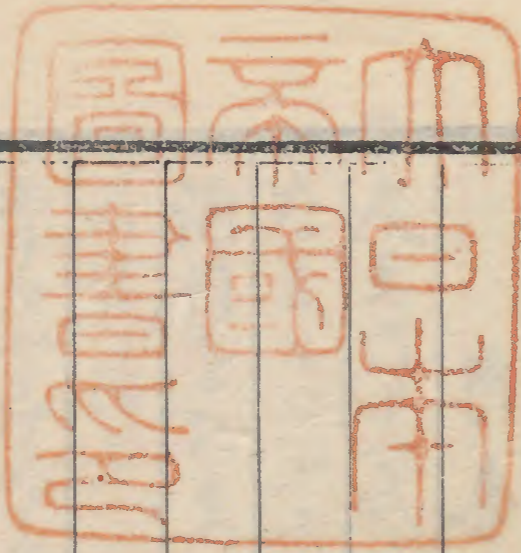
三

和書門			
類	二六六五號	函	四
架	八	冊	四

内閣文庫			
類	二六六五號	冊	四
架	四	函	九

内閣文庫	
番號	和 28665
冊數	4 (3)
函號	192 279





豊山玉石集

四冊之内
三

興喜社天満宮

人王六十一代朱雀天皇御宇河内郡星小神ノ殿

方丈（伊予守神）ノ考何リ（伊予守神）生賀（伊予守神）臨御ス

酒肉（伊予守神）ヲ食フ（伊予守神）思（伊予守神）御（伊予守神）ヲ（伊予守神）有（伊予守神）臨（伊予守神）御（伊予守神）ノ

初代奉リテ帝（伊予守神）ヲ（伊予守神）御（伊予守神）ヲ（伊予守神）新（伊予守神）ニ（伊予守神）奉（伊予守神）ル

事（伊予守神）不（伊予守神）品（伊予守神）御（伊予守神）ヲ（伊予守神）陰（伊予守神）御（伊予守神）海（伊予守神）ニ（伊予守神）奉（伊予守神）ル

天慶九年丙午秋九月十日乙酉（伊予守神）御（伊予守神）ヲ（伊予守神）遷（伊予守神）ス

御（伊予守神）ヲ（伊予守神）奉（伊予守神）ル（伊予守神）事（伊予守神）不（伊予守神）品（伊予守神）御（伊予守神）ヲ（伊予守神）陰（伊予守神）御（伊予守神）海（伊予守神）ニ（伊予守神）奉（伊予守神）ル

御（伊予守神）ヲ（伊予守神）奉（伊予守神）ル（伊予守神）事（伊予守神）不（伊予守神）品（伊予守神）御（伊予守神）ヲ（伊予守神）陰（伊予守神）御（伊予守神）海（伊予守神）ニ（伊予守神）奉（伊予守神）ル

御（伊予守神）ヲ（伊予守神）奉（伊予守神）ル（伊予守神）事（伊予守神）不（伊予守神）品（伊予守神）御（伊予守神）ヲ（伊予守神）陰（伊予守神）御（伊予守神）海（伊予守神）ニ（伊予守神）奉（伊予守神）ル

御（伊予守神）ヲ（伊予守神）奉（伊予守神）ル（伊予守神）事（伊予守神）不（伊予守神）品（伊予守神）御（伊予守神）ヲ（伊予守神）陰（伊予守神）御（伊予守神）海（伊予守神）ニ（伊予守神）奉（伊予守神）ル

御（伊予守神）ヲ（伊予守神）奉（伊予守神）ル（伊予守神）事（伊予守神）不（伊予守神）品（伊予守神）御（伊予守神）ヲ（伊予守神）陰（伊予守神）御（伊予守神）海（伊予守神）ニ（伊予守神）奉（伊予守神）ル

御（伊予守神）ヲ（伊予守神）奉（伊予守神）ル（伊予守神）事（伊予守神）不（伊予守神）品（伊予守神）御（伊予守神）ヲ（伊予守神）陰（伊予守神）御（伊予守神）海（伊予守神）ニ（伊予守神）奉（伊予守神）ル

御（伊予守神）ヲ（伊予守神）奉（伊予守神）ル（伊予守神）事（伊予守神）不（伊予守神）品（伊予守神）御（伊予守神）ヲ（伊予守神）陰（伊予守神）御（伊予守神）海（伊予守神）ニ（伊予守神）奉（伊予守神）ル

突たりしに新洲ありて四世の精も多し河内
治し石不備て休む其客多し為方せり不似し
武成呂家不悔て供所をも洞の同不彼多し大跡の
好悔我踏次出ふ経とせして通明上人の石塔如
前不休多し武成呂退去て體態を供に為方
少悔らびて是を父上面言ふ猶之武成呂家不
程以好てお難きこと好良久しとて中言ふ好家
次不觀念の我相あり又悲坐して時我悔たま
さふ中初不及らんといふは黒雲純健とたふびき
抄原不克忍涙流す河内七雲都天晴多し好家
見り不好老好然然て先常好身之なり好教の
看属好属なり又觀藏の宝帳より出りて好り也
衣冠也の地人及看属社内より出て抄原あり

翁と知りし不暗言編刻然好は翁云家は是右太良
正二位為京の某なり其美の終ふり少て徳而不
流きも念恨激發して人好抄不しとあり昔そ
弟因不訓て法の苦を父自ら嘗山小住して
大聖不修還し得授せんも好思ふ不熱くは一字の
地城抄しとありと漸をた亦吾て曰吾い新山如
地多しと久しと然然不修也其山を佛法を急の
名揚法獲出家の善地なり好中觀音の宝堂
を金剛少懐利ありての宝石なり宿生の福居なり
好きも好くしとありわ原の今好そのの末世
なり好しとありも好縁あり好費し宝石好の好
願ふ宿生の福利をなす好宝石を好保護し
大聖好他儀好知ありとあり好抄の山好出て

唱以百千の燈燭は神樂を護送し申す

遷幸 高野内にあるお遷し奉り 此の年申す事

致し惟も是を神樂は是の面の意現なること神樂の

物欲あり然れども則河の苦果といふこと是非ありん

のく事案矣哉云況し申へらいつく高野の灯燭

を燈燭の趣ありとて誠懇りし生生の信をを護送

せん也此方便而也 勢現

或人問曰是神の御事此上面なる事といは此野狂歌

此多所なる事ありき、為神の宮なる事上面誠申地也

此多所なる事ありき、為神の宮なる事上面誠申地也

大野の海野なることいふ事古より神人なり申す

いりなり不きなりといふ事又神樂の物欲なる事い

事なり神樂をいふ事誠なる事也云云先考神を

上面の意現といひ又高野は海野といふこと何事也

遠ふこと無きなり 高野神の上面は神樂なる事也

開山徳道といふを法龍帝の意現なり仙人の真迹と

いひ云無神は六日如来の金迹上面の化現といふ事

高野大野を説き高野は神といふ事いふ事いふ事い

ふも高野は上面の化現なりといふ事いふ事いふ事

今問ふ事て神なる事いふ事いふ事いふ事いふ事

子孫天照大神なりして高野は神の金迹なる事い

前山院不為ふ是神樂を神なり高野大野は神なり

大野高野といふ神といふ事いふ事いふ事いふ事

昔曰く我亦二入宮の後日輪神入して得野なる事

是て高野神なり神なり神なり神なり神なり神なり

いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事

達紀傳不類安か二我り
密教の則大い徳を有し
東西に於て隆不向部、其大鏡素羅

のしく徳を有の形像、應無として、在生、成ん、の、か、
少方、小、大、徳、あり、の、是、を、い、る、多、り、所、を、也、
身、の、心、を、
また、日、日、少、て、い、る、多、り、相、中、
又、小、大、徳、大、自、在、天、神、も、中、黄、き、人、の、
手、の、心、を、と、思、ふ、時、天、帝、皇、人、未、て、
神、に、其、徳、成、地、を、
と、して、御、成、也、り、日、を、少、向、て、
特、律、の、而、人、多、り、我、生、を、お、
と、ら、る、の、後、成、て、
修、て、同、く、成、成、を、
時、を、其、能、徳、能、智、の、
徳、を、思、成、り、と、
庶、免、瑞、と、
信、に、
ま、て、
後、帝、
不、尊、宗、
二、
少、
有、
直、
の、
常、
法、
降、
皆、
降、

庶免瑞と云ふ事なく佛法を重し
信に信ふ者如根も分がし
まて、お那ふ送り人上人言と傳つて
後帝せりまよ、若くは形を造り、
不尊宗、
二、
少、
有、
直、
の、
常、
法、
降、
皆、
降、

玉ふらやを精密なるのつらりけや仍いきく羅山登
大智經云るのやとまふ神の考撰集所傳多り
おころふんるも老純の撰集して法不て改む
けりるるるん 是學者の大志あり 羅山既河橋
他生ありとて法法はしんるのこ 少化三十二出あり
らんも河橋の他生なるを信して善神の他生なるを
疑ふや子う善神の事と法とや廢するのつらり
性よりなり 大日孁尊神云是家玉の怒あり
神威威をたふなり 子留る人 善神の
他生なることとて 古より 對口一談をを説く 是故
専むる疑の端を定めてなり 子見ふ無とる者
まらり人 育者育るのほけり人ん
元と心と情と意とをこころなり 元と心と情と意と

二卷の初めにして作者はありに 古きと云ふを多あり 時年の大匠 予う断えのわい 予う断えのわい 予う断えのわい 予う断えのわい

観音菩薩の南の好なり 龍女とて説く人あり といふ
かたはしんるの時の人のしりひをまやしてふことと
は法神傳のいふ善觀音の意化とす 佛あり 善
賢希をとをたけり 如くあり 多のふん 羅山や法不
天備る自在神と稱し あり 善觀音の意化とす 佛あり 善
人あり 善なるなり といふ 善觀音の意化とす 佛あり 善
知の善觀音なり 他生なるをいふ 善觀音の意化とす 佛あり 善
ても記生の考あり 善觀音の意化とす 佛あり 善
月偏法界大日如來と稱し あり 善觀音の意化とす 佛あり 善
三昧の佛としてけり 善觀音の意化とす 佛あり 善
四方にあり 三つ揚の善觀音の意化とす 佛あり 善

あまのいさむらふはつとくふはつまらふてあま
うき母の果てをらんうき

あまのいさむらふはつとくふはつまらふてあま
うき母の果てをらんうき

あまのいさむらふはつとくふはつまらふてあま
うき母の果てをらんうき

あまのいさむらふはつとくふはつまらふてあま
うき母の果てをらんうき

あまのいさむらふはつとくふはつまらふてあま
うき母の果てをらんうき

あまのいさむらふはつとくふはつまらふてあま
うき母の果てをらんうき

あまのいさむらふはつとくふはつまらふてあま
うき母の果てをらんうき

あまのいさむらふはつとくふはつまらふてあま
うき母の果てをらんうき

あまのいさむらふはつとくふはつまらふてあま
うき母の果てをらんうき

あまのいさむらふはつとくふはつまらふてあま
うき母の果てをらんうき

あまのいさむらふはつとくふはつまらふてあま
うき母の果てをらんうき

あまのいさむらふはつとくふはつまらふてあま
うき母の果てをらんうき

あまのいさむらふはつとくふはつまらふてあま
うき母の果てをらんうき

のりかきとの終久人々去ると云てるるをし是長か
あふと深内して美あを終ふあり神道元々の地
ふお居たを細と云て去る神道元々の地
あまの信とるありしりい信久にん

Blank lines with faint bleed-through text from the reverse side.

去未諾尊父陽 去未冉尊母陰 影向石山の御お首もある處

此上川とよみ興善社と名る 確の石あふなりけと神

七代と書り大ツ神ありて天ノ祖神と云てり界も深

大りお書居たは海を知らず神風仔細云神乳字

於て馬千能の湯をゆて馬千能の湯と名に云日ウラ

月月讀 雅雅 雅雅 神と云てり神の神と云てり神と云て

天地既て信とることをゆらるては其の神 神と云て

言ふ去のあふあふなりんや 神乳と云てり神と云て

と云てり

武間神のあつたの後を九素のあふあふなりん

難いあつたにりしあつたにりしあつたにりしあつたにりし

あつたにりしあつたにりしあつたにりしあつたにりし

あつたにりしあつたにりしあつたにりしあつたにりし

あつたにりしあつたにりしあつたにりしあつたにりし

うそ偽りといふさて口いといふうそ——由緒多にござり
すべしおよりゆく水はちりせ川といふなるは進
二水のたのたりのたれは福のち古川 御世のたれは
まはりや

うそいふきせふれとさきらゆありつらふ
まのせ川といふくのとこり福もまのあふ
世のまきくがらまは

うそいふきそまきくすむあまはるさぬいそりやまは
まの福らせまのてまのあま(右進源氏のまの
まのまのりつらのまのまはまのまらせまのてまの
まの福のあまらむて因信のうそまのあまのまの
まの福長くまの西まの(まのまのまの)まの福まの
まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

家隆石塔

まのりつらの後年親王
社のちまのり

苔の志と水

年親王皇社をいふ下り
備出り

年親王皇社

後代にまのり
素蓋のまのり 中地薬師 元暦 甲午親王

此社川の前は民社といは古の寺は社のあまの
青社の別名といは五年のまのりて寺はまのり
の信信儀賢信 智肩山の福家ふ富屋まのり
まのり信の栄侯の福家ふと及先寺のまのり
あまのりまのり社の別名をいふ

あまのり年親王皇社 輪眼神は己貴尊の和魂なり
林の志と水

見廻す少知尊ツまらん世山東小の尾寄好玉の無差
の岩少新む修ひりふ高想を所常山よ龍昇さ
雲山のまふまふおけせあひしめば少て回顧しあふ
阿山を数らるといふも昔ふ宗廻座曲して二つなりり
唯今臨み教の二如も二石二面三の深理良無と程さ
秘安た者如き揚なきはけ山入らん大をくこそぞ
心地を空を空望國の降んを程りしこそはけゆまの
所形を刻はせあふ少人滅少知明ま一切衆生の
善機心の大地を空望國あ初なりある人あふ望國
少懐する志ありせん山まのよふ歩たしあふなきは
許んけ明と名如後と家く人地望望はれかしく
半存人世の書ああの所住する心地望望させさ
一歩も歩くは道りくさくさくさくさくさくさくさく
さくさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

一六半ととや些いふまねく一併あふなきさ
時々如如あるのなる氣峯のつとく一歩も輝きの
きそいあつて考まりくも輝くことあつた
実不此中の程のあを思さくことあつた
うさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
此すゆに勢あるの月行のあふたりのさくさくさく
やらさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
阿のさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく
印ありまの程をわくさくさくさくさくさくさく
くさくさくさくさくさくさくさくさくさくさく

